

P1-17.

リウマチ滑膜細胞の増殖機構の解明

(大学院修士課程1年運動器科学)

○横田 真穂

(医学総合研究所 運動器科学部門、未来医科学研究寄附講座)

藤田 英俊

(医学総合研究所 運動器科学部門)

荒谷 聡子

(医学総合研究所 運動器科学部門、

未来医科学研究寄附講座、臨床共同研究センター)

中島 利博

関節リウマチは、関節腔に存在する滑膜細胞の異常増殖に伴って滑膜組織が肥大化し、結果として、免疫異常や骨・軟骨の破壊などの多段階の病的プロセスが相互作用しながら発症することが知られているが、滑膜細胞の増殖異常の根本的な原因はいまだ不明である。これまでの研究において、リウマチ滑膜細胞 (RSC) は、過増殖した滑膜組織より分離された初代培養細胞が研究に用いられてきたが、過増殖した滑膜組織自体が種々の細胞の集団であり、各々の RSC の性質・特長についてはほとんど明らかではない。本研究では、リウマチ滑膜組織より分離した RSC をシングルセル化し、その機能解析を行った。具体的には、継代数の少ない RSC を用いて、同一 well に細胞が二個以上入らないように細胞溶液を希釈し、96 well プレート 10 枚に細胞を播種した。細胞の増殖に伴い、24 well プレート、6 well プレート、10 cm ディッシュへと細胞を継代した。得られた細胞の増殖速度を測定するとともに、増殖速度が早い細胞群と、遅い細胞群から RNA を抽出し、DNA マイクロアレイを行い、発現の異なる遺伝子群・パスウェイについて解析したので、その結果について報告する。

P1-18.

関節リウマチにおけるタンパク質分解ネットワークの解明

(医学総合研究所 運動器科学部門、未来医科学研究寄附講座)

○藤田 英俊

(医学総合研究所 運動器科学部門、

未来医科学研究寄附講座、臨床共同研究センター)

中島 利博

(医学総合研究所 運動器科学部門)

荒谷 聡子、横田 真穂

関節リウマチは全身性の種々の免疫異常、滑膜細胞の過増殖、骨・軟骨破壊、線維化などの多段階の病的プロセスが相互作用しながら、進行することが知られている自己免疫疾患のひとつである。近年の研究により、タンパク質品質管理機構が正常な折り畳みに失敗した不良タンパク質や細胞内外のストレスを介した構造変化による不良タンパク質の除去に重要であり、このユビキチン・プロテアソームシステムが多く疾患に関与することが明らかになりつつある。我々は、小胞体ストレスに応答するシノビオリンに着目し、シノビオリンが、変性タンパク質除去に機能する E3 ユビキチンリガーゼであることを報告した。また、シノビオリンが関節リウマチの発症、肥満、線維化発症や肝硬変に関与するなど慢性炎症と関与することも明らかになってきた。さらに、本研究を発展させた結果、シノビオリンとは異なる E3 ユビキチンリガーゼを同定したので、その結果について報告する。

P2-19.

頭頸部扁平上皮癌に対する TPF 療法 1 コースによる導入化学療法の検討

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

○丸山 諒、岡本 伊作、本橋 玲

佐藤 宏樹、勝部 泰彰、高瀬聡一郎

小島 理央、清水 顕、塚原 清彰

(茨城：耳鼻咽喉科)

平澤 一浩

頭頸部扁平上皮癌に対する導入化学療法 (ICT) として TPF 療法は広く用いられており、臓器 (機能)